

研究業績 (小出 大介)

論文リスト

- 1) 小出大介. 様々な垣根を越えて医薬品の情報に係る標準を考える-海外と国内・一次利用と二次利用・規制領域と医療 医薬品規制・臨床研究の観点から. 医療情報学 43 (Suppl):pP408-411, 2023.
- 2) 小出大介.教育講演6「医療ビッグデータを用いた医薬品等の安全性評価 (薬剤疫学) について」.第25回日本医薬品情報学会総会・学術大会 講演要旨集 P65. 2023.
- 3) 小出大介. ビッグデータを薬事に用いるーシグナルディテクションの背景と現状ー. Precision Medicine. 6(12): 26(974)-30 (978), 2023.
- 4) 小出大介 : 5.臨床試験を読み解くための試験デザイン・統計学の理解. 処方方の「なぜ？」がわかる臨床現場の薬理学.今井靖 (編) .レジデントノート増刊. Vol25(14)., p44(2456)-50(2462), 2023.
- 5) 小出大介: 3.3.4.国内における動向. ヘルスデータサイエンス入門ー医療・健康データの活用を目指してー. 手良向 聡・山本 景一・河野 健一(編). 朝倉書店 (東京) , p151-154, 2023.
- 6) Ueda I, Kohsaka S, Ikemura N, Kimura T, Katsumata Y, Takemura R, Suzuki M, Takatsuki S, Koide D, Fukuda K. Patient concern regarding bleeding side effects from oral anticoagulation therapy for atrial fibrillation: An analysis from the multicenter KiCS-AF registry. Eur J Cardiovasc Nurs. 2023 Sep 11:zvad094. doi: 10.1093/eurjcn/zvad094. Epub PMID: 37694609.
- 7) Kumamaru H, Togo K, Kimura T, Koide D, Iihara N, Tokumasu H, Imai S. Inventory of real-world data sources in Japan: Annual survey conducted by the Japanese Society for Pharmacoepidemiology Task Force. Pharmacoepidemiol Drug Saf. 2024 Jan;33(1):e5680. doi: 10.1002/pds.5680. Epub 2023 Aug 31. PMID: 37650434
- 8) 田中大輔、小出大介、松山裕、大庭幸治. 関節リウマチ患者を対象とした経口JAK阻害剤のリアルワールドデータに基づく安全性プロファイルの検討. 日本臨床試験学会 第14回学術集会総会 プログラム・抄録集, P96, 2023. (2023/2/9-10の10日)
- 9) 小出大介. 薬剤疫学における産官学の連携. Precision Medicine. 5(14): 8(1262)-9(1263), 2022.
- 10) 神坂 遼, 上村 鋼平, 小出 大介, 大庭 真梨, 松山 裕: レセプトデータベースを用いた関節リウマチ治療薬の長期安全性プロファイルの検討. Journal of Epidemiology (0917-5040)32 巻 Suppl.1 Page153
- 11) Facile R, Muhlbradt EE, Gong M, Li Q, Papat V, Pétavy F, Cornet R, Ruan Y, Koide D, Saito TI, Hume S, Rockhold F, Bao W, Dubman S, Jauregui Wurst B. Use of Clinical Data Interchange Standards Consortium (CDISC) Standards for Real-world Data: Expert Perspectives From a Qualitative Delphi Survey. JMIR Med Inform. 2022 Jan 27;10(1):e30363. doi: 10.2196/30363. PMID: 35084343; PMCID: PMC8832264.
- 12) Atsushi Nishikawa, Eiko Yoshinaga, Masaki Nakamura, Masayoshi Suzuki, Keiji Kido, Naoto Tsujimoto, Taeko Ishii, Daisuke Koide. Validation Study of Algorithms to Identify Malignant Tumors and Serious Infections in a Japanese Administrative Healthcare Database. Annals of Clinical Epidemiology. 4(1): 20-31. 2022.
- 13) 小出大介. 臨床研究におけるリアルワールドデータ (RWD) 活用に向けた期待と課題. 医療情報学 40(Suppl): 286-289.2020.
- 14) 小出大介. 第4章 病院マネジメントと情報通信技術 (ICT) .高橋淑郎 (編) .非営利組織と営利組織のマネジメント. 中央経済社 (東京). 59-71.2020.
- 15) Ono S, Ono Y, Koide D, Yasunaga H: Relationship between severe respiratory depression and codeine-containing antitussives in children: a nested case-control study. J Epidemiol, 2020, 30(3): 116-120. (doi: 10.2188/jea.JE20180224).
- 16) Ono S, Ono Y, Koide D, Yasunaga H: Association between routine nephropathy monitoring and subsequent change in estimated glomerular filtration rate in patients with diabetes mellitus: a Japanese non-elderly cohort study. J Epidemiol, 2020, 30(8):326-331. (doi: 10.2188/jea.JE20180255).
- 17) 小出大介. FDA・EMAにおけるRWDの現状と我が国の状況. 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 50(11): 664-9. 2019.
- 18) Kanae Togo, Hironobu Tokumasu, Naomi Iihara, Hiraku Kumamaru, Tomomi Kimura, Daisuke Koide: Inventory of real-world data sources in Japan: Survey results by JSPE Pharmacoepidemiology and Database Task Force. ACPE 2019 program and abstract book. P97, 2019.
- 19) 小出大介: 薬剤疫学とは. 日本病院薬剤師会雑誌. 55(8):915-916. 2019.
- 20) 平松達雄, 小出大介, 宇山佳明, 中島直樹. 日本での EHR-Phenotyping とアウトカム指標のバリ

- レーション. (第 38 回医療情報学連合大会) 医療情報学 38(Suppl.): 254-257, 2018.
- 21) 小出大介. 臨床研究を担うアカデミアの観点からの医薬品コードの実際と課題. (第 38 回医療情報学連合大会) 医療情報学 38(Suppl.): 78-79, 2018.
 - 22) 木村通男, 小出大介, 鈴木敦, 樽野弘之, 大橋靖雄, 法的及び技術的变化に対応した臨床研究の推進に向けて. (第 38 回医療情報学連合大会) 医療情報学 38(Suppl.): 128-9, 2018.
 - 23) Ando T, Ooba N, Mochizuki M, Koide D, Kimura K, Lee SL, Setoguchi S, Kubota K. Positive predictive value of ICD-10 codes for acute myocardial infarction in Japan: a validation study at a single center. *BMC Health Serv Res.* 2018 Nov 26;18(1):895. doi: 10.1186/s12913-018-3727-0.
 - 24) 小出大介. ビッグデータを活用した安全対策. *Precision Medicine.* 2018; 1(1):40-3.
 - 25) 岩上 将夫, 青木 事成, 赤沢 学, 石黒 智恵子, 今井 志乃ぶ, 大場 延浩, 草間 真紀子, 小出 大介, 後藤 温, 小林 典弘, 佐藤 泉美, 中根 早百合, 宮崎 真, 久保田 潔. 「日本における傷病名を中心とするレセプト情報から得られる指標のバリデーションに関するタスクフォース」報告書. *薬剤疫学*, 2018; 23(2): 95-146.
 - 26) 小出大介. 薬剤疫学 過去・現在・未来-From Big Data to Knowledge. *薬剤疫学.* 2018; 23(2):147-151. July 2018 doi: <https://doi.org/10.3820/jjpe.23.147>
 - 27) Kubota K, Ooba N, Kamijima Y, Sato K, Koide D. The use of anticoagulants in patients with non-valvular atrial fibrillation between 2005 and 2014: A drug utilization study using claims data in Japan. *PLoS One.* 2018 Sep 5;13(9):e0203380. doi: 10.1371/journal.pone.0203380. eCollection 2018.

- 28) 小出大介. MID-NETにおけるバリデーション. 医療薬学フォーラム2018-第26回クリニカルファーマシーシンポジウム-講演要旨集. p173, 2018.
- 29) 大野幸子, 小川光紀, 上村鋼平, 坂巻顕太郎, 平川晃弘, 小出大介, 松山裕. 生物統計家育成のための教育カリキュラムの標準化. 東大病院先端医療シーズ開発フォーラム 2018 A11.
- 30) 小出大介. 医療情報 DB 基盤整備事業で開発された MID-NET の活用. 東大病院先端医療シーズ開発フォーラム 2018 p28-29.
- 31) Akiko Kishi, Ichiro Uchida, Daisuke Koide, Kyoko Imamura. Japanese Initiative for Education in Pharmaceutical Medicine and Clinical Research Training. *J Med Dev Sci.* 3(1):1-10, 2017. doi: 10.18063/JMDS.2017.01.166
- 32) 小出大介. 薬剤疫学 過去・現在・未来 From Big Data to Knowledge. 日本薬剤疫学会学術総会抄録集 23 回. Page22. 2017.
- 33) 小出大介, 木村通男, 浅井 聡, 竹内正人, 川上浩司, 松下泰之. 医療データベース研究の活性化に向けて. *医療情報学.* 37 (Suppl): 117-119. 2017.
- 34) 小出大介. MID-NET による医薬品等の安全対策の向上. *医療の質・安全学会誌.* 12 (Suppl): p130. 2017.
- 35) 和田育江, 渡邊史子, 照沼憂哉, 小出大介, 吉本 真, 赤堀 眞, 森豊隆志, 坂中千恵, 山崎 力. 医師主導治験副作用報告における外国症例の収集. *臨床薬理.* 48(Suppl): s286. 2017.
- 36) 吉本 真, 滝田道子, 土屋稔子, 渡辺史子, 和田育江, 小出大介, 山崎 力, 森豊隆志. アカデミアにおける未承認医薬品を用いた臨床試験における医薬品有害事象データベースの有用性. *臨床薬理.* 48(Suppl): s326. 2017.
- 37) 小出大介, 山崎 力. 電子カルテと医薬品安全性報告の連携. 東大病院先端医療シーズ開発フォーラム 2017 p68
- 38) 林 裕志, 平松達雄, 小出大介, 田中勝弥, 大江和彦: 電子カルテデータベースからの LASSO ロジスティック回帰による医薬品副作用シグナルの検出: ケース・コントロール研究. *薬剤疫学.* 21(2):51-62. 2016.
- 39) Suzuki K, Koide D, Fujii K, Yamazaki T, Tsuji S, Iwata A: Elevated Serum Uric Acid Levels Are Related to Cognitive Deterioration in an Elderly Japanese Population. *Dement Geriatr Cogn Disord Extra.* 6(3): 580-8, 2016. (DOI:10.1159/000454660)
- 40) 小出大介. 医療の情報システム化と研究利用の最前線 改正個人情報保護法のインパクト. *臨床薬理.* 47(Suppl): S177, 2016.
- 41) 小出大介, 木村通男, 山口光峰, 久保田 潔: 医療の情報システム化と研究利用の最前線. *医療情報学.* 36(Suppl): 68-70, 2016.
- 42) 小出大介, 石川 ベンジャミン光一, 宮田裕章, 岡田美保子: 医療ビッグデータを読む. *医療情報学.* 36(Suppl): 26-28, 2016.
- 43) 小出大介: BSC への批判を客観的に検討する. *医療バランスト・スコアカード研究* 12(2): 25-29. 2016.
- 44) 小出大介, 杉山 昇, 平松達雄, 大江和彦: 8. 医療情報データベースの活用に向けたデータのバリデーション. 特集 薬剤疫学 ～医療ビッグデータの利活用～. *医薬ジャーナル* 2016. 52(8):105(1897)-110(1902).
- 45) 小出大介. 総論: 医療ビッグデータの利活用. *日本臨床試験学会雑誌* 11. 薬理と治療(Japanese Pharmacology & therapeutics). 44.(Suppl.1):s6-s7, 2016
- 46) 小出大介, 佐藤 国靖, 杉山 昇, 原田 賢治, 岸 暁子, 山崎 力. 臨床研究・治験のための e-learning の評価. 東大病院先端医療シーズ開発フォーラム 2016 p87
- 47) 山崎力, 小出大介: わが国の臨床研究の向上のためにー 統合倫理指針の理解と普及に期待 *THERAPEUTIC RESEARCH* 36(4):287-290,2015
- 48) 平松 達雄, 林 裕志, 小出 大介, 大江 和彦. 医療情報データベース MID-NET から新医薬品の安全性シグナルの早期検出を目指す自動報告システムの試作. *医療情報学* 2015. 34(Suppl.): 714-7.
- 49) 水野由子, 山崎力, 小出大介, 小室一成. 耐糖能異常が腫瘍マーカーに及ぼす影響について. *日本内科学会雑誌* 2015. 104(Suppl):160.
- 50) 木村通男, 小出大介, 山口光峰, 隈丸 拓, 青木事成. 医療情報の活用推進に向けた標準化及び品質管理. *医療情報学.* 35(Suppl): 74-79, 2015.
- 51) 杉山 昇, 岸 暁子, 小出大介. 臨床研究の教育を支援する e-learning システムの設計に関する研究. *医療情報学.* 35(Suppl): 486-488, 2015.

- 52) 高橋淑郎, 劉 慕和, 北村世都, 小出大介: 病院におけるBSC導入と成果に関する多角的研究 その1~日本・カナダ・台湾の比較~. 医療バランスト・スコアカード研究 12(1): 59-78. 2015.
- 53) 小出大介, 青木武典, 劉 慕和, 北村世都, 高橋淑郎: 日本・カナダ・台湾の病院におけるBSCと情報システムの関連性について. 医療バランスト・スコアカード研究 12(1): 54-58. 2015.
- 54) 北村世都, 高橋淑郎, 青木武典, 劉 慕和, 小出大介: 自己決定理論からみた医療 BSCにおける「学習と成長の視点」達成要因の検討. 医療バランスト・スコアカード研究 12(1): 69-78. 2015.
- 55) 小出 大介, 山崎 力: 情報技術 (IT) による Balanced ScoreCard (BSC)について (日本・台湾・カナダの比較研究) . 東大病院先端医療シーズ開発フォーラム. p99. 2015
- 56) Kubota K, Kamijima Y, Sato T, Ooba N, Koide D, Iizuka H, Nakagawa H. Epidemiology of psoriasis and palmoplantar pustulosis: a nationwide study using the Japanese national claims database. *BMJ Open*. 2015 Jan 14;5(1):e006450. doi: 10.1136/bmjopen-2014-006450
- 57) Lee SL, Hashimoto H, Kohro T, Horiguchi H, Koide D, Komuro I, Fushimi K, Yamazaki T, Yasunaga H: Influence of Municipality-Level Mean Income on Access to Aortic Valve Surgery: A Cross-Sectional Observational Study under Japan's Universal Health-Care Coverage. *PLoS One*. 2014 Oct 31;9(10):e111071. doi: 10.1371/journal.pone.0111071. eCollection 2014.
- 58) 小出 大介. 医療データベースの RMP への活用. 薬剤疫学. 19(2):133-41. 2014.
- 59) 小出 大介. 「医薬品リスク管理計画 (RMP) の現状と今後」の企画にあたって. 薬剤疫学. 19(2):101. 2014.
- 60) 久保田 潔, 青木 事成, 漆原 尚巳, 鍵村 達夫, 景山 茂, 小出 大介, 古閑 晃, 佐藤 嗣道, 中村 敏明, 中島 研, 畑中 直也, 平河 武, 宮川 功, 望月 眞弓: 「日本における適正な安全性監視計画作成のためのタスクフォース」報告書 よりよい医薬品安全性監視計画作成とチェックリスト. 薬剤疫学 19 (1): 57-74. 2014.
- 61) 小出大介: バリデーションの結果を踏まえて. 第17回日本医薬品情報学会総会・学術大会講演要旨集. p64. 2014
- 62) 小出大介: 対象集団とデータベース. 医療薬学フォーラム 2014 講演要旨集. p137. 2014
- 63) Lee SL, Daimon M, Kawata T, Kohro T, Kimura K, Nakao T, Koide D, Watanabe M, Yamazaki T, Komuro I: Estimation of right atrial pressure on inferior vena cava ultrasound in asian patients. *Circ J*. 78(4): 962-6. 2014 (PMID: 24476843)
- 64) 小出 大介: e-learning のコンテンツ 何が必要. 日本臨床試験研究会 第5回学術集会総会プログラム・抄録集. p28. 2014.
- 65) 小出 大介, 山崎 力: 職種・レベル別に対応した安全な臨床研究・治験のための e-learning システムの開発. 東大病院先端医療開発フォーラム. p99. 2014
- 66) 小出大介: 病院機能評価のトレンド. 日中医学 28(2):3. 2013
- 67) 小出大介: 序文: 『SS-MIX を基盤とする大規模データベースを用いた医薬品等の安全性調査・研究』の企画にあたって. 薬剤疫学 18(1):13. 2013.
- 68) 小出大介, 木村通男: 大規模データベースのバリデーション. 医療情報学 33(Suppl.): 12-3. 2013.
- 69) 小出大介: 医療情報データベースを用いた安全対策. 臨床薬理. 44 (Suppl.): s133. 2013.
- 70) 山崎晶司, 吉尾卓, 苅尾七臣, 浜本敏郎, 星出聡, 小出大介: アカデミアにおける治験・臨床研究に関する教育の実態調査. 臨床薬理. 44 (Suppl.): s315. 2013.
- 71) 小出大介: 日本の医療データベース研究の現状. 日本薬剤疫学会第 19 回学術総会 抄録集. p38. 2013
- 72) 水野 由子, 山崎 力, 小出 大介, 小室 一成: ヘリコバクターピロリ菌感染と口腔内病巣の関連. 人間ドック(1880-1021)28 巻 2 号 Page274
- 73) 久保田 潔, 小出 大介, 古閑 晃, 景山 茂, 植田 真一郎, 木村 通男, 豊田 建, 大橋 靖雄, 大津 洋, 青木 事成, 小宮山 靖, 庄本 幸司, 平河 威, 篠田 英範, 佐藤 嗣道: SS-MIX 標準ストレージを活用した製造販売後の調査・臨床研究推進に関する提言. 薬剤疫学(1342-0445)18 巻 1 号 Page65-71
- 74) 小出大介: 序文: 『SS-MIX を基盤とする大規模データベースを用いた医薬品等の安全性調査・研究』の企画にあたって. 薬剤疫学 18(1):13. 2013.
- 75) 水野 由子, 山崎 力, 興梠 貴英, 飯室 聡, 小出 大介, 小室 一成: 頸動脈内中膜複合体厚 (intima-media thickness) と鉄過剰. 超音波医学(1346-1176)40 巻 Suppl. PageS458
- 76) 久保田 潔, 小出 大介, 古閑 晃, 景山 茂, 植田 真一郎, 木村 通男, 豊田 建, 大橋 靖雄, 大津 洋, 青木 事成, 小宮山 靖, 庄本 幸司, 平河 威, 佐藤 嗣道: 【臨床研究の基盤をなす電子情報の標準化】 (第2部)SS-MIX 標準ストレージを活用した製造販売後の調査・臨床研究推進 SS-MIX 標準

- ストレージを活用した製造販売後の調査・臨床研究推進に関する提言. 薬理と治療(0386-3603)41巻 Suppl.1 PageS34-S40
- 77) 小出大介：ナショナルデータベースと SS-MIX の現状. 応用統計学会 2013 年会講演予稿集.p11-16. 2013.
- 78) 小出大介：日経メディクイズ 医学統計の読み方. 日経メディカル. 3(544):125-126. 2013.
- 79) 小出大介：電子的副作用報告に関する ICH 国際仕様標準の検証. 東京大学先端医療シーズ開発フォーラム. p109.2013.
- 80) 木村友美、小出大介、折井孝男.日本で薬剤疫学研究に利用可能なデータベース. 薬剤疫学(Japanese Journal of Pharmacoepidemiology) 17(2):135-44, 2012.
- 81) 小出大介、木村通男：治験、臨床研究、製造販売後調査・試験の IT 化のこれから. 医療情報学 32(Suppl.): 112-3. 2012.
- 82) 小出大介：日経メディクイズ 医学統計の読み方. 日経メディカル. 11(540):69-70. 2012.
- 83) 小出大介：日経メディクイズ 医学統計の読み方. 日経メディカル. 7(536):65-66. 2012.
- 84) 小出大介：ICH-E2B(R3)実装ガイドについて. 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス (Pharmaceutical and Medical Device Regulatory Science). 43(2):104-109. 2012.
- 85) 小出大介：2. データベースの構築について~海外との比較~. 第 I 部新薬創出に向けた臨床薬剤疫学. 医薬ジャーナル.48(S-1 増刊号):25-31. 2012
- 86) 小出大介：ネステッドケース・コントロール研究の意義について. 日本医事新報. No. 4578. P83-6. 2012
- 87) 小出大介：クリニカルパスにおける標準アウトカムの比較 -アプローチの違いから-.平成 23 年度 大学病院情報マネジメント部門連絡会議 抄録集. p319-22. 2012.
- 88) 小出大介：日経メディクイズ 医学統計の読み方. 日経メディカル. 1(530):81-82. 2012.
- 89) Toshiro Takahashi , Daisuke Koide. CSR and BSC for Sustainable Hospital Management (Part 1 Hospitals and CSR), 情報科学研究. 第 20 号, pp.31-52, 2011.
- 90) 小出大介、岡田美保子：「医薬品個別症例安全性報告(ICSR)」規格草案のテストと評価. 医療情報学 31(Suppl.): 171-4. 2011.
- 91) 小出大介、木村通男：医療情報データベースを活用した医薬品等の安全対策の向上と課題. 医療情報学 31(Suppl.): 21-2. 2011.
- 92) 池田三恵, 小出大介, 木村友美, 小山 弘子：医薬品の安全対策に日本のデータベース等をどう活用するか. 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス (Pharmaceutical and Medical Device Regulatory Science). 42(11): 932-44. 2011.
- 93) 小出大介：疫学データを用いた医療経済学分析について. 日本医事新報. No. 4564. P82-5. 2011
- 94) 小出大介：日経メディクイズ 医学統計の読み方. 日経メディカル. 9(526):79-80. 2011.
- 95) 小出大介、山崎 力：臨床試験登録の国際状況. 心不全 ON-SITE. No.4:18-19. 2011.
- 96) 小出大介：診断検査の臨床疫学.日本医事新報. No. 4551. P87-9. 2011
- 97) 小出大介：日経メディクイズ 医学統計の読み方. 日経メディカル. 5(522):87-88. 2011.
- 98) 小出大介：日経メディクイズ 医学統計の読み方. 日経メディカル. 1(518):93-94. 2011.
- 99) 小出大介：フレンチ・パラドクスから交絡 (Confounding) を学ぶ. 日本医事新報. No. 4533. P43-5. 2011
- 100) 小出大介：症例対照研究(ケース・コントロール研究)の意義とバイアスへの対応について学ぶ. 日本医事新報. No. 4520. p39-41. 2010.
- 101) 小出大介、山崎 力：DPP-4 阻害薬シタグリプチンとアログリプチンのHbA1c 減少効果に関するメタアナリシス. Progress in Medicine. 30(10): 2645-51, 2010.
- 102) Daisuke Koide, Mihoko Okada, Gou Masuda, Yukinori Konishi: Feasibility Testing of the New Individual Case Safety Report (ICSR) in Japan. the 16th JSPE and 5th ACPE joint meeting. p48, 2010.
- 103) 小出大介、池田俊也、武藤正樹：クリティカルパスのアウトカム用語の標準化. 医療情報学 30(Suppl.): 933-936. 2010.
- 104) 小出大介：アルブミン製剤の適正使用を喚起した論文からメタアナリシスを学ぶ. 日本医事新報. No. 4507. p39-41. 2010.
- 105) 小出大介：日経メディクイズ 医学統計の読み方. 日経メディカル. 9(514):93-94. 2010.
- 106) 小出大介：医薬品開発における電子化の現状と展望. 臨床医薬 26(4): 249-260. 2010.
- 107) 小出大介、木内貴弘：CDISC と薬剤疫学. 医薬ジャーナル 46(8): 89-93, 2010.

- 108) 小出 大介、岡田 美保子、増田 剛、小西 由貴範: ICH の新しい電子的副作用報告への対応. 薬剤疫学 14(Suppl):S60-S61, 2009.
- 109) Daisuke Koide. Current Status and Future View of Electronic Data Exchange Format on Pharmaceutical Development. The 6th Annual Japan DIA meeting. p109-114. 2009.
- 110) 小出大介, 岡田美保子: 医薬品の電子的個別症例安全性報告. 医療情報学 28(Suppl.): 436-9.2008.
- 111) George Ochieng Otieno, Toyama Hinako, Asonuma Motohiro, Koide Daisuke, Naitoh Keiko: Measuring effectiveness of electronic medical records systems: Towards building a composite index for benchmarking hospitals. Int J Med Inform 77(10):657-69. 2008.
- 112) 小出大介: 科学論文に頻出する統計手法の特徴とその意味. 医薬ジャーナル 44(4):1099-104, 2008.
- 113) 小出大介: 医薬品安全性報告- 国際的動向と国内における取り組み.医療情報学 27(Suppl.): 23-26.2007.
- 114) Daisuke Koide, Hisako Matsuba, Hiroyuki Furukawa, Kiyoshi Kubota, Takahiro Kiuchi: Pharmaceutical Safety Reporting System on UMIN. Medinfo.2007 (CD):p131, 2007.
- 115) 高月公博、小出大介、古川裕之: 日本・米国・英国における安全性情報の電子的報告 主に医療従事者からの報告. 薬事 49(4): 599-606, 2007
- 116) George Ochieng Otieno, Hinako Toyama, Motohiro Asonuma, Daisuke Koide, Keiko Naitoh; Sophistication of information technology in healthcare: A comparison among a sample of hospitals in Japan. Electronic Journal of Health Informatics 2(2)e12:1-13,2007.
- 117) George Ochieng Otieno, 外山比南子, 小出大介, 阿曾沼元博, 内藤恵子: EMR Effectiveness:Development and Statistical Validation of a Survey Instrument to Measure Use of, Quality of and User Satisfaction with EMR from the Viewpoint of Physicians. Japan Journal of Medical Informatics 26(5):323-32, 2006.
- 118) 石川洋一, 古川裕之, 小出大介, 大津洋, 木内貴弘: 電子カルテ導入病院における治験実施の現状と課題. 日本病院薬剤師会雑誌 42(12): 1577-1580, 2006
- 119) 小出大介, 松葉尚子, 高月公博, 古川裕之, 久保田潔, 青木則明, 木内貴弘, 岡田美保子, 開原成允: UMIN を利用した個別症例安全性報告システム. 薬剤疫学 11(Suppl.):S26-S27, 2006 (Oct)
- 120) 古川裕之, 石川洋一, 大津洋, 小出大介, 木内貴弘: 臨床試験データの電子的伝達の標準化.薬事 48(11): 1769-1778, 2006
- 121) Koide D, Asonuma M, Naito K, Igawa S, Shimizu S: Evaluation of electronic health records from viewpoint of patients. Studies in Health Technology and Informatics. 122:304-8, 2006
- 122) Koide D, Peskin E: New uses for computer in medical education, clinical practice, and patient safety in the US and Japan. Progress in Informatics, 1(2). P.3-15. 2005.
- 123) 小出大介, 陳俊成, 小山博史: がん予防薬情報データベースの開発. 臨床薬理. 36(Suppl):s280. 2005.
- 124) 小出大介: システム評価指標の検証. 医療情報学. 25(Suppl):256-258, 2005
- 125) 河本晃宏, 岡田美保子, 玉井恭子, 内田昌宏, 小出大介, 開原成允: 電子副作用報告処理システムの開発-データモデルに基づいた検索機能を中心として. 医療情報学. 25(Suppl):475-476, 2005
- 126) 陳俊成, 小出大介, 山崎力: バイオインフォマティクスにおけるカリキュラムの検討. 医療情報学 25(Suppl): 257-258, 2005
- 127) 小出大介: 医療安全の実践である薬剤疫学-その発展に必要なファクター-. 薬剤疫学. 10(Suppl): s32-3. 2005.
- 128) 小出大介: 病院情報システムに対する患者の視点を取り入れた評価指標の開発. INNERVISION. 20(8): 34. 2005.
- 129) 小出大介: 日本発のエビデンス産生と教育プログラム. Japanese Pharmacology & Therapeutics (薬理と治療). 33(5): 413-415.2005.
- 130) 小出大介, 阿曾沼元博, 井川澄人, 内藤恵子, 梅里良正, 中村清吾, 開原成允: . 病院情報システムについて患者の視点からの評価 医療情報学 24 (Suppl.): p444-445. 2004.
- 131) 河本 晃宏, 松岡 真希子, 小池 大介, 岡田 美保子, 小出 大介, 開原 成允: 小規模医療施設向けの電子副作用報告処理システムの開発. 医療情報学 24 (Suppl.): p778-779. 2004.

- 132) 小出大介: 「メディカルライティング集中講座」の成果と教育プログラムへの反映. *Jpn Pharmacol Ther* (薬理と治療). 32(10): 715-719. 2004.
- 133) Koide D, Kaihara S.: The virtual hospital system bridges the split between lectures and practical training in health service management. *Medinfo.2004* (CD):p1689; 2004.
- 134) 小出大介: 情報化 電子カルテと遠隔医療. *ICEP ニュース* No47 p15-18. 2004.
- 135) Kubota K, Koide D, Hirai T: Comparison of data mining methodologies using Japanese spontaneous reports. *Pharmacoepidemiol Drug Saf.* 13(6):387-94. 2004.
- 136) 小出大介, 山崎力: エビデンスに基づく臨床ガイドライン. *臨床と薬物治療*. 23(1): 68-71. 2004.
- 137) 小出大介: 文献検索と Critical Reading. *Surgery frontier*. 10(4): 89-92.2003.
- 138) 齋藤正基, 小出大介: 戦略としてのホスピタルチェーン. *INNERVISION*. 18(6): 20-21. 2003.
- 139) 小出大介, 岡田美保子, 開原成允: 医薬品安全性報告の電子化に向けて. *臨床薬理*. 34(1): 93S-94S. 2003.
- 140) 小出大介, 岡田美保子, 開原成允: ICH に準拠した個別症例安全性報告システムの検討. *薬剤疫学*, 7(suppl.):s44-s43.2002.
- 141) 小出大介, 開原成允: 医療経営管理教育における講義と実習をつなぐ「仮想病院システム」の開発. *医療情報学* 22 (Suppl.): 629-630. 2002.
- 142) 岡田美保子, 小出大介, 開原成允: ICH に準拠した医薬品個別症例安全性報告の国内仕様-実証実験を通じて. *医療情報学* 22 (Suppl.): 91-92. 2002.
- 143) 小出大介: 電子カルテを活用した副作用情報の収集. *月刊薬事*, 44(11):59-63. 2002.
- 144) Ohyama Y, Funao K, Kawabe E, Hayashi D, Yamazaki T, Iga T, Koide D, Ohe K, Kubota K: Calcium channel blockers and myocardial infarction: a case-control study in a Japanese hospital. *Pharmacoepidemiol Drug Saf.* 11(6): 487-92. 2002.
- 145) 高松聖子, 小出大介, 美代賢吾, 小野木雄三, 大江和彦: 統計研究への診療情報使用に対する看護職員および患者意識調査. *医療情報学*, 21(4): 245-252. 2001.
- 146) 小出大介, 岡田美保子, 開原成允: 国際標準に則った医薬品安全性報告システムの開発と評価. 第 21 回医療情報学連合大会論文集, 20(1): 770-771. 2001.
- 147) Daisuke Koide, Kazuhiko Ohe: Applying Data Mining to Detection of Adverse Drug Reactions. *MEDINFO 2001*. V.L.Patel Eds. IOS Press Amsterdam:1421.2001.
- 148) Daisuke Koide: Electronic Safety Information in Japan. *The regulatory affairs journal* : 283-285, 2001.
- 149) 小出大介: ガイドラインと EBM. *診断と治療*. 89(9): 1414-1420. 2001.
- 150) 小出大介: 情報リテラシーを身につける: 医療情報学教育と EBM. *EBM ジャーナル*, 2(2): 174-177. 2001.
- 151) 小出大介, 美代賢吾, 波多野賢二, 小山博史, 清谷哲朗, 高橋泰, 小野木雄三, 木内貴弘, 大江和彦: Evidence-based Medicine (EBM) の考え方を取り入れた 医療情報学実習. *医療情報学*, 20(4): 269-276. 2000.
- 152) 岡田美保子, 開原成允, 小出大介: 医薬品規制情報電子的標準に関する検討 一電子申請を中心として一. 第 20 回医療情報学連合大会論文集, 20(1): 306 - 307. 2000.
- 153) 陳俊成, 堀口真吾, 美代賢吾, 小出大介, 大江和彦: 細菌検査結果データウェアハウスに基づく警告システムの開発. 第 20 回医療情報学連合大会論文集, 20(1): 120-121. 2000.
- 154) 小出大介, 大江和彦, Dennis Ross-degnan, Thomas Inui: 吸入ステロイドの使用が併用喘息薬の減少に与える効果 (臨床データベースによる実証研究), 第 20 回医療情報学連合大会論文集, 20(1): 398-399. 2000.
- 155) 小出大介: EBM とガイドライン. *診断と治療*. 88(11): 2098-2101.2000.
- 156) 小出大介: ICH E2B 個別症例安全性報告のためのデータ要素. *医学のあゆみ*. 193(13): 1025-1029. 2000.
- 157) Daisuke Koide, Kazuhiko Ohe, Dennis Ross-Degnan, Shigekoto Kaihara: Computerized reminders to monitor liver function to improve the use of etretinate. *International Journal of Medical Informatics*, 57(1): 11-19. 2000.
- 158) 小出大介, 大江和彦: コンピュータでエビデンスをさがすには. *EBM ジャーナル*. 1(2): 8-13. 2000.
- 159) 岡田美保子, 小出大介, 開原成允, 大江和彦: ICH 医薬品規制情報電子的標準一実施に向けての調整と新たな取り組み, 第 19 回医療情報学連合大会論文集, 19(1): 182-183. 1999.

- 160) 堀口真吾、陳俊成、小出大介、北河見予志、大江和彦：長期診療情報データベース検索サービス手法の提案-処方データベースを例とした実装について-。第 19 回医療情報学連合大会論文集，19(1)：160-161. 1999.
- 161) 党琦、小野木雄三、美代賢吾、小出大介、大江和彦：CORBA と XML を用いた退院サマリー管理システム，第 19 回医療情報学連合大会論文集，19(1)：512-513. 1999.
- 162) 高松聖子、小出大介、美代賢吾、大江和彦：診療データの診療外利用における問題の解析-インフォームドコンセントのあり方-。第 19 回医療情報学連合大会論文集，19(1)：848-849. 1999.
- 163) 小出大介，美代賢吾，小山博史，清谷哲朗，高橋泰，小野木雄三，木内 貴弘，大江和彦：Evidence-based Medicine (EBM) の考え方を取り入れた医療情報学実習教育。第 19 回医療情報学連合大会論文集，19(1)：406-407. 1999.
- 164) 岡田美保子，開原成允，村上貴久，小出大介，大江和彦：医薬品規制ハーモナイゼーション推進国際共同研究 (ICH) —ICH4 M2 ブシュッセル会議を終えて—。医療情報学，18(1)：71-77. 1998.
- 165) 大山良治，小出大介，浜田知久馬，矢船明史，久保田潔，大江和彦，伊賀立二：日本の病院データベースを用いた薬剤疫学研究の方法論について。薬剤疫学，3(1)：47-59. 1998.
- 166) 岡田美保子、開原成允、魚井徹、小出大介、大江和彦：ICH 連携。第 18 回医療情報学連合大会論文集，18(1)：42-43. 1998.
- 167) 小出大介，Dennis Ross-Degnan，久保田潔，大江和彦，伊賀立二：抗喘息薬使用実態の日米比較。薬剤疫学，3(Suppl)：s36-s37. 1998.
- 168) 岡田 美保子，開原 成允，小出 大介，大江和彦，村上貴久：医薬品規制ハーモナイゼーション推進国際共同研究(ICH) 電子的情報交換の標準を中心として。医療情報学，17(4)：523-32. 1997.
- 169) 久保田潔，小出大介，浜田知久馬，矢船明史：副作用「企業報告」の現状と企業報告の公開問題などに関する企業の認識。薬剤疫学，2(2)：111-130. 1997.
- 170) 植村晶，小出大介，浜田知久馬，矢船明史，久保田潔：吸入ステロイド薬を用いた喘息管理について。薬剤疫学，2(1)：45-46. 1997.
- 171) 小出大介，開原成允，大江和彦，浜田知久馬，矢船明史，植村晶：副作用検出のためのデータソースの比較検討。薬剤疫学，1(2)：97-105. 1996.
- 172) 小出 大介，大江 和彦，開原 成允：医薬品適正使用を目指したシステムづくりとその評価。薬剤疫学，1(1)：31-32. 1996.
- 173) 小出 大介，大江 和彦，岡田 美保子，廣田光恵，村上貴久：医薬品情報の電子的交換 ICH における標準化への取り組み。医療情報学 16 回連合大会論文集，16(1)：776-777. 1996.
- 174) 小出 大介，大江 和彦，北村 聖，北河見予志，吉原秀明，長瀬淑子，櫻井恒太郎，開原成允，下坂浩則，大久保昭行：検査オーダーにおける保険限度警告システムの開発と評価。医療情報学 15(4)：217-227. 1995.
- 175) 小出 大介，開原 成允，大江 和彦，他：副作用検出法の比較検討。医療情報学 15 回連合大会論文集，15(1)：877-880. 1995.
- 176) 小出 大介，片平 洌彦，山崎 喜比古，園田 恭一：確認書調印後 10 年以上経過したスモン患者の実態とその精神的健康問題に関連する要因の検討。社会薬学，14(1)：28-43. 1995. 12/1?
- 177) 浜田知久馬，小出大介，楠 正，大橋靖雄：Sorivudine の相互作用情報の伝達に関する実態調査。臨床薬理，25(3)：583-596. 1994.
- 178) 小出大介，片平洌彦：「確認書」調印後 12 年を経たスモン患者の実態。日本薬学会第 112 年会講演要旨集(4)：298. 1992.